

スタートアップ融資実務ハンドブックの抜粋

(1) 本ハンドブックを作成する意義

JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会

スタートアップは、我が国の産業構造を変革し、将来の経済成長を担うと同時に、様々な社会課題の解決への貢献も期待されており、我が国の経済・社会の発展において、極めて重要な存在である。

我が国経済におけるスタートアップの重要性

- スタートアップは、革新的なサービス・技術によって、既存産業の変革や新たな産業・市場の形成を促進し、将来の経済成長のドライバーとなることが期待されている。
- 少子高齢化に伴い、労働力・後継者不足による企業数の減少や産業の衰退等の課題を抱える地域経済にとっては、地域経済の活性化、雇用創出への大きな期待を担う存在である。

<日本(TOPIX)と米国(S&P)における直近10年間の株価推移>



過去10年の日米の株価パフォーマンスの差が、革新的なサービス・技術を持つ企業の創出・育成が、中長期的な経済発展に大きな影響を及ぼすことの証左と言える。

出所：経済産業省「スタートアップの力で社会課題解決と経済成長を加速する」(2024年9月)

インパクトスタートアップによる社会課題の解決例

- 環境・エネルギー** □ 断水時でも機能する小規模分散型水循環システムを駆使した、水を循環利用するシャワー・手洗い設備を能登半島地震の被災地に提供。
- 医療・福祉** □ 主に知的障害のある作家のアートデータをライセンス管理し、作家へロイヤリティを支払うビジネスモデルを展開。障害者の経済的自立を支援。
- 食・農業** □ 環境負荷の小さな農業に取り組む新規就農者に対し、栽培計画を共に立案し、農業活動に伴走することで、農家の経営を支援。有機野菜の普及に寄与。
- 教育・子育て** □ 学生向けのDX人材育成プログラムを提供し、地域全体でのDX人材の育成と活用を加速させ、地域経済の発展に貢献。
- 金融包摂** □ コロナ禍においてコロナ拡大防止基金を立ち上げ、資金が不足する医療機関・福祉団体等への資金供給の円滑化に貢献。

出所：インパクトスタートアップ協会HP

JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会

こうした中、銀行界も、我が国のデットプレイヤーの中核として、スタートアップの創出・育成に貢献することが求められている。融資ノウハウの蓄積・普及は未だ途上であり、スタートアップ融資に関する実務知見を業界内で共有することで、健全かつサステナブルなスタートアップ融資市場の確立・拡大を目指す。

スタートアップ支援における銀行の役割

- 銀行の使命は、我が国のデットプレイヤーの中核として、取引先を支援し、日本経済・地域経済の持続的な発展に貢献すること。
- 従って、銀行は、将来の日本経済・地域経済を担うスタートアップを発掘し、金融仲介機能の発揮等を通じて、スタートアップの創出・育成に積極的に貢献することが求められる。
- また、今後成長が見込まれるスタートアップと成長初期段階から関係を構築することで、ライフステージに応じた多様な収益機会を獲得出来る可能性もある。

<銀行の主な支援機能>

【金融支援】

目利き力を発揮し、数字に表れないモノの流れや経営者のビジョン・考え方をを含む事業性を評価して融資を行う

【営業支援】

企業、行政、大学等とのつながりを活用し、スタートアップの潜在ニーズを長期的な視点で発掘、営業活動を支援する

【計画策定支援】

各業界の特性を理解した上で、資金繰りや資本政策、事業計画の策定や予実管理等、多様なコンサルティングを行う

銀行界として目指すべき姿・課題

- 目指すべき姿** □ 融資手法や審査手法、リスク・リスターンの考え方が浸透し、多様なプレイヤーによって健全かつサステナブルなスタートアップ融資市場が形成される。
- 融資取引に留まらず、各銀行が有する多様なサービスを通じてスタートアップの創出・育成を支援。
- 現状・課題** □ スタートアップ融資について、知識・ノウハウは蓄積途上であり、またプレイヤーも限定されている。
- 特に、地域金融機関等の新規参入者にとっては、参考にできる情報が少なく、今後の健全な市場拡大のネックとなることが懸念される。

全銀協において、地域金融機関等の新規参入者向けに、融資手法・審査における実務上のポイント等を取り纏めた「スタートアップ融資実務ハンドブック」(本書)を作成。

(2) スタートアップ融資の役割と特徴

JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会											
<p>スタートアップの主たる資金調達源はエクイティであるが、デットは、運転資金を提供しつつ、相対的に低コストで必要資金量を確保することを可能とする等、エクイティを補完する</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>エクイティ</th> <th>デット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 役割 ・スタートアップにとっての主たる資金調達源 </td> <td> ・エクイティの補完的な位置づけ(スタートアップの信用力が高まるにつれて、資金調達における位置づけも大きくなる) </td> </tr> <tr> <td> 資金使用 ・研究開発費、人件費、広告宣伝費等、スタートアップの成長に必要なあらゆる資金 </td> <td> ・運転資金、設備資金に加え、(エクイティ調達を補完する形での)研究開発費、人件費、広告宣伝費等 </td> </tr> <tr> <td> 返済条件 ・資金提供者に返済する義務がなく、調達した資金を比較的長期間運用できる </td> <td> ・資金提供者に返済する義務があり、調達した資金の運用期間は比較的短い </td> </tr> <tr> <td> コスト ・高い資本コストがかかることに加え、経営権が希薄化する </td> <td> ・相対的に低いコストで調達が可能であり、経営権を希薄化させることもない </td> </tr> </tbody> </table>	エクイティ	デット	役割 ・スタートアップにとっての主たる資金調達源	・エクイティの補完的な位置づけ(スタートアップの信用力が高まるにつれて、資金調達における位置づけも大きくなる)	資金使用 ・研究開発費、人件費、広告宣伝費等、スタートアップの成長に必要なあらゆる資金	・運転資金、設備資金に加え、(エクイティ調達を補完する形での)研究開発費、人件費、広告宣伝費等	返済条件 ・資金提供者に返済する義務がなく、調達した資金を比較的長期間運用できる	・資金提供者に返済する義務があり、調達した資金の運用期間は比較的短い	コスト ・高い資本コストがかかることに加え、経営権が希薄化する	・相対的に低いコストで調達が可能であり、経営権を希薄化させることもない
エクイティ	デット										
役割 ・スタートアップにとっての主たる資金調達源	・エクイティの補完的な位置づけ(スタートアップの信用力が高まるにつれて、資金調達における位置づけも大きくなる)										
資金使用 ・研究開発費、人件費、広告宣伝費等、スタートアップの成長に必要なあらゆる資金	・運転資金、設備資金に加え、(エクイティ調達を補完する形での)研究開発費、人件費、広告宣伝費等										
返済条件 ・資金提供者に返済する義務がなく、調達した資金を比較的長期間運用できる	・資金提供者に返済する義務があり、調達した資金の運用期間は比較的短い										
コスト ・高い資本コストがかかることに加え、経営権が希薄化する	・相対的に低いコストで調達が可能であり、経営権を希薄化させることもない										
<p>【ポイント】 Q. スタートアップは、エクイティとスタートアップ融資をどのように使い分けるのか？ > 融資は返済する必要があり、安易に借りると返済が滞り、資金繰りを圧迫する場合もあるため、メインはエクイティによる調達となる一方で、エクイティの調達コストは高く、経営権の希薄化も招くため、デットによる調達ニーズも存在している そのため、資金使用や必要金額、自身の財務状況等に応じて、エクイティとスタートアップ融資を適切に組み合わせる 財務基盤が強固になり、必要資金額も大きくなるとデットの役割が拡大していく</p>											
<p>© 2025 JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 15</p>											

JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会											
<p>スタートアップ融資は、コーポレートデットと比較すると、費用性資金等にもより柔軟に利用される点や、エクイティ調達等、本業が生み出す営業キャッシュフローに依らない返済を許容している点に特徴</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>スタートアップ融資</th> <th>コーポレートデット(除くスタートアップ融資)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 債務者 ・赤字で資産もなく、信用力が十分でない中で、急進的な事業拡大を志向しており、足許の営業キャッシュフローを大きく超えた成長投資を行う。 </td> <td> ・黒字で資産もあり、過去からのトラックレコードも存在している上、基本的には安定的な事業運営を行っており、基本的に営業キャッシュフローの範囲内で投資を行う </td> </tr> <tr> <td> 資金使用 ・運転資金、設備資金に加え、成長に必要な費用性資金(研究開発費用、広告費、人件費等) </td> <td> ・運転資金、設備資金 ※費用性資金の支援は限定的 </td> </tr> <tr> <td> 返済原資 ・営業キャッシュフローに加え、エクイティ調達(増資・IPO)を中心とした、財務キャッシュフローによる返済も許容 </td> <td> ・主に本業である営業活動から生み出す営業キャッシュフローで返済 </td> </tr> <tr> <td> 与信の考え方 ・トラックレコードが限定的なことも多く、将来性も見据えて評価を実施 </td> <td> ・豊富なトラックレコードを基に返済蓋然性を評価 </td> </tr> </tbody> </table>	スタートアップ融資	コーポレートデット(除くスタートアップ融資)	債務者 ・赤字で資産もなく、信用力が十分でない中で、急進的な事業拡大を志向しており、足許の営業キャッシュフローを大きく超えた成長投資を行う。	・黒字で資産もあり、過去からのトラックレコードも存在している上、基本的には安定的な事業運営を行っており、基本的に営業キャッシュフローの範囲内で投資を行う	資金使用 ・運転資金、設備資金に加え、成長に必要な費用性資金(研究開発費用、広告費、人件費等)	・運転資金、設備資金 ※費用性資金の支援は限定的	返済原資 ・営業キャッシュフローに加え、エクイティ調達(増資・IPO)を中心とした、財務キャッシュフローによる返済も許容	・主に本業である営業活動から生み出す営業キャッシュフローで返済	与信の考え方 ・トラックレコードが限定的なことも多く、将来性も見据えて評価を実施	・豊富なトラックレコードを基に返済蓋然性を評価
スタートアップ融資	コーポレートデット(除くスタートアップ融資)										
債務者 ・赤字で資産もなく、信用力が十分でない中で、急進的な事業拡大を志向しており、足許の営業キャッシュフローを大きく超えた成長投資を行う。	・黒字で資産もあり、過去からのトラックレコードも存在している上、基本的には安定的な事業運営を行っており、基本的に営業キャッシュフローの範囲内で投資を行う										
資金使用 ・運転資金、設備資金に加え、成長に必要な費用性資金(研究開発費用、広告費、人件費等)	・運転資金、設備資金 ※費用性資金の支援は限定的										
返済原資 ・営業キャッシュフローに加え、エクイティ調達(増資・IPO)を中心とした、財務キャッシュフローによる返済も許容	・主に本業である営業活動から生み出す営業キャッシュフローで返済										
与信の考え方 ・トラックレコードが限定的なことも多く、将来性も見据えて評価を実施	・豊富なトラックレコードを基に返済蓋然性を評価										
<p>【ポイント】 Q. 資産もキャッシュフローもトラックレコードもないのに、なぜスタートアップ融資ができるのか？なぜ、スタートアップ融資では、費用性資金を支援することができるのか？ > 成熟企業と異なり、スタートアップの費用性資金は、成長に向けた先行投資的な側面があり、将来CFを生み出す場合も多い。 加えて、営業キャッシュフローでの返済を前提としつつも、それが足許では不足している場合にはエクイティ調達した資金による返済も想定できる。 そのため、事業計画やエクイティ調達の蓋然性を検証することが重要であり、銀行員に発行体・VC等とのコミュニケーションが求められる。</p>											
<p>© 2025 JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 18</p>											

(3) スタートアップ融資の主なプロセス

JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会	
【スタートアップ融資の各プロセスにおけるポイント】	
プロセス	ポイント
対象先の ソーシング・ 選定	情報収集体制の構築
	対象先の抽出
ニーズ把握	スタートアップ特有の ニーズの把握
	案件に応じた 基本構造の選択
融資条件の 設計	信用リスクの削減
	経済合理性の確保
	新株予約権付融資 の導入
審査	定性面の評価
	定量面の評価
期中管理	早期察知の仕組み
	コベナツツの管理
	回収

会員銀行限り

資料: エキスパートインタビュー
© 2025 JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 21

※この他、公的支援プログラムの活用や組織体制の整備についても掲載

以 上